

2017～2020 年度 家庭の省エネアンケート 集計結果

当センターでは、2017～2020 年度までの 4 年間、環境展に出展した際や、茨城県地球温暖化防止活動推進員の活動の際に、参加者に家庭の省エネアンケートへの回答をしていただいていた。4 年間での累計回収数は 8059 件であった。県内の回答結果を纏めたものを以下に示す。

図-1 に示した性別回答数では、男性が全体の約 40%(3313 件)であり、女性が約 60%(4688 件)と女性からの回答が多かった。

図-2 に示した世代別回答数では、40 代の回答数が 24%(1920 件)と最も多く、次に 30 代の回答数が 18%(1427 件)という結果となった。20 代の回答数が 5%(422 件)と一番少ない回答数となった。

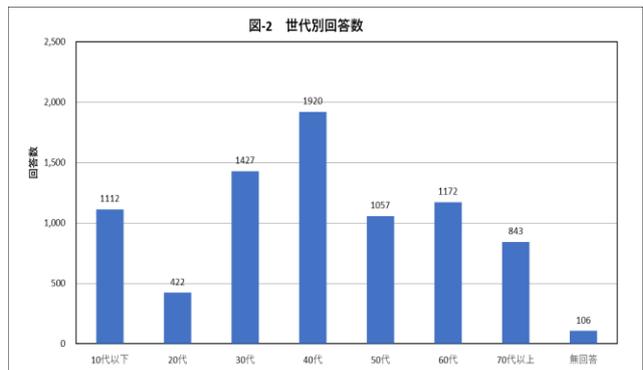
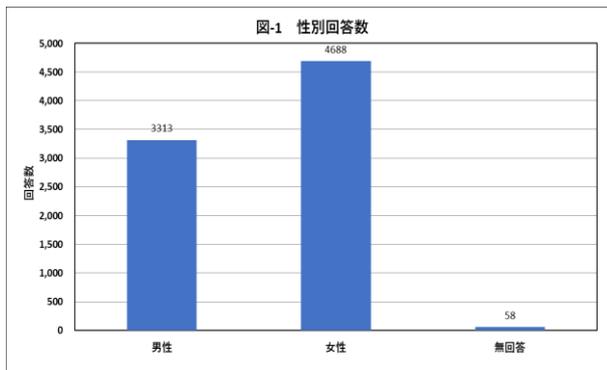
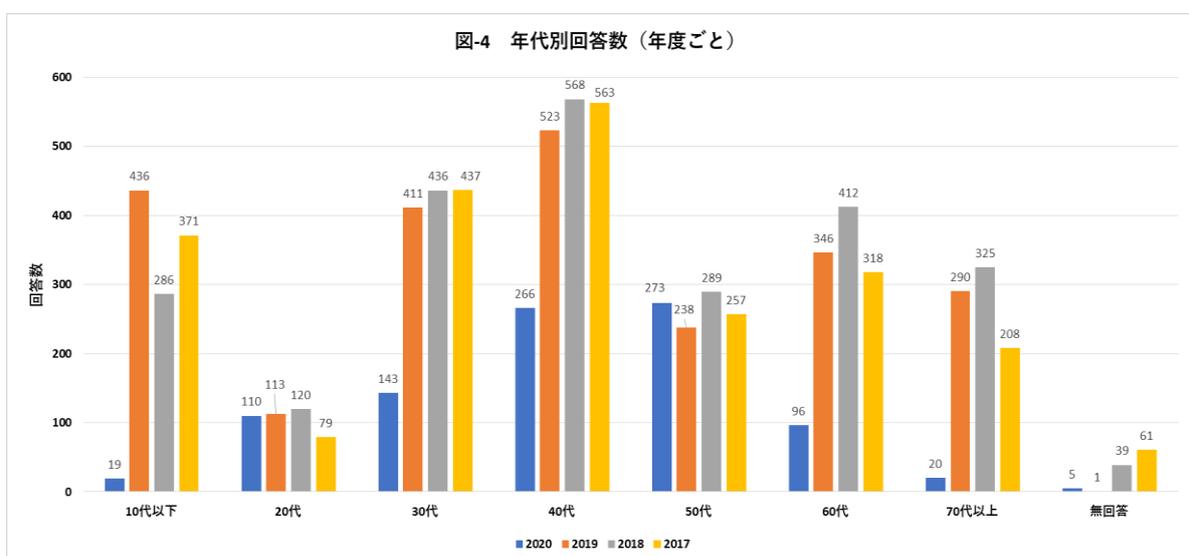
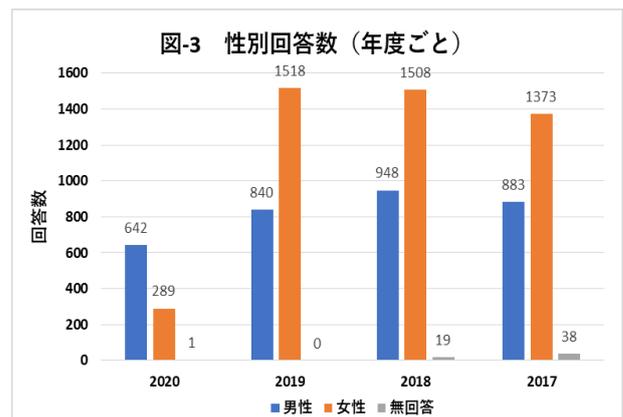


図-3 に年度ごとの性別回答数を示した。2017 年～2019 年は、女性の回答数の方が多く、2020 年は男性の回答数が多い結果となった。この結果を図-4 に示した年代別回答数と合わせて考えると、2017 年～2019 年は 30～40 代と 10 代の回答数が多い結果となっている。これは、環境展などへの出展の際にアンケートへの協力をお願いしていたことから、環境展に来ていた親子からの回答を多く頂くことが出来たのではないかと考えられる。2020 年度は新型コロナウイルスの感染予防対策として、環境展などが中止となっており、母体となる茨城県環境管理協会の会員企業にアンケートの協力をお願いしたことから、男性からの回答が多くなったのではないかと考えられる。



アンケートの設問を以下の表-1 に示す。

表-1 家庭の省エネアンケート 設問

No.	機器	内容
1	冷蔵庫	設定温度を強から中にする。
2		ものを詰め込みすぎない。
3	照明器具	白熱電球をLED電球に取り替える。
4	テレビ	画面は明るすぎないようにする（画面の輝度を最適（最大→中）に調整）。
5	エアコン	夏の冷房時の室温は28℃、冬の暖房時の室温は20℃を目安に。
6		フィルターを月に1回か2回清掃する。
7	風呂給湯器	入浴は間隔をあけずに。
8		シャワーは不必要に流したままにしない。
9	電気ポット	長時間使用しない時はプラグを抜く。
10	電気カーペット	設定温度は低めにする。
11	石油ファンヒーター	室温は20℃を目安に。
12		必要な時だけつける。
13	ガスファンヒーター	室温は20℃を目安に。
14		必要な時だけつける。
15	自動車	発進時のアクセルはゆっくり踏み込む。
16		走行中はできるだけ速度を一定に保つ。
17		早めのアクセルオフをすること。

表-1 のそれぞれの項目について、

- A.既に実施している
 - B.これから、実施したいと思う
 - C.これからも、実施するのは難しい
- の3つから回答をしていただいた。

アンケートの回答結果を元に、下記の表-2 の係数を使いCO₂の削減効果を計算した。

表-2 省エネ効果算出根拠

	CO2排出係数	単位	原油換算係数	単位	金額換算係数	単位
電気 ※1	0.587	kg/kWh	0.252	L/kWh	27	円/kWh
ガス ※1	2.277	kg/m ³	1.16	L/m ³	180	円/m ³
灯油 ※1	2.488	kg/L	0.947	L/L	64	円/L
ガソリン ※2	2.322	kg/L	0.893	L/L	120	円/L
水道 ※1	0		0		228	円/m ³

係数の引用元(平成30年7月現在)

※1 省エネ性能カタログ2017年冬版(経済産業省 資源エネルギー庁 発行:2017年12月)

※2 家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬(経済産業省 資源エネルギー庁 発行:2017年8月)

表-3 及び図-5 に、2017～2020 年度の家庭の省エネアンケートでの普及啓発を行った、温室効果ガスの削減量を示した。

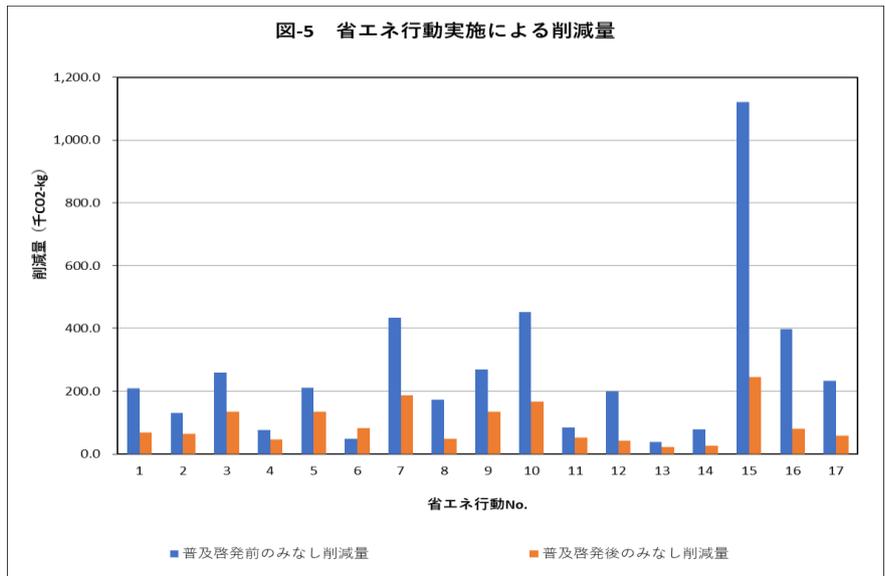
CO₂の削減効果をみると、普及啓発前のCO₂削減量は 4,414,398.8 CO₂-kg、普及啓発後のCO₂削減量は 1,597,878.7 CO₂-kg であった。合計のCO₂削減量は 6,012,277.5 CO₂-kg になり、一人当たりのCO₂削減量は約 746 CO₂-kg となった。

CO₂の削減効果を削減経費でみると、普及啓発前の削減経費は 259,523,780 円であり、普及啓発後の削減経費は 90,590,230 円となった。合計すると 350,114,010 円の経費を削減することが出来た見込みである。

表-3 普及啓発による削減効果

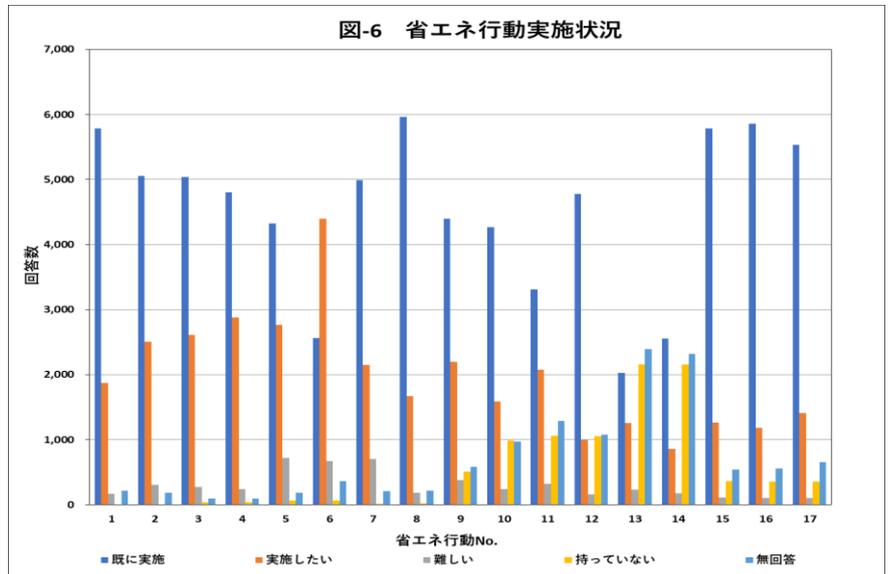
	削減効果		
	削減量(CO ₂ -kg)	削減経費(円)	原油換算量(L)
普及啓発前	4,414,398.8	259523780	1,871,324.64
普及啓発後	1,597,878.7	90590230	691,143.15
合計	6,012,277.5	350114010	2,562,467.79

図-5 省エネ行動実施による削減量



また、図-6 に各項目の省エネ行動の実施状況 (年度合計) を示した。「冷蔵庫」に関する設問 1.2、「照明器具」に関する設問 3、「テレビ」に関する設問 5、「風呂給湯器」に関する設問 7.8、「電気ポット」に関する設問 9、「電気カーペット」に関する設問 10、「石油ファンヒーター」に関する設問 11.12、「自動車」に関する設問 15.16.17、これらの項目に関しては「既に実施」との回答が多く、省エネ行動に対する意識が高い

図-6 省エネ行動実施状況



ことが伺える。エアコンに関する設問 5.6 に関しては、設問 5 の「夏の冷房時の室温は 28℃、冬の暖房時の室温は 20℃を目安に。」は「既に実施」との回答が多かったが、設問 6 の「フィルターを月に 1 回か 2 回清掃する。」に関しては「実施したい」との回答が多く、アンケートでの啓発により、これからの意識が高まっていくと考えられる。「ガスファンヒーター」に関する設問 13.14 に関しては、「持っていない」、「無回答」の合計が 50%を超えており、ガスファンヒーターを所有していない家庭が多いと考えられる。

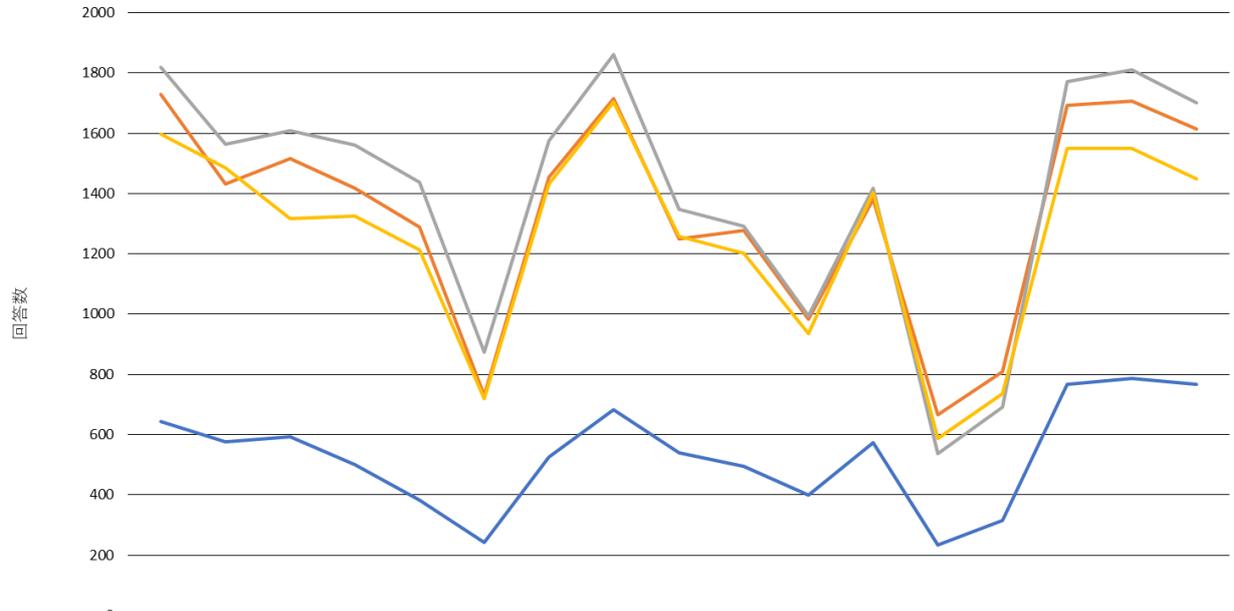
次に、図-7 から図-10 までに省エネ行動の実施状況について、アンケートの回答選択肢ごとにまとめたものを示した。表-4 の各年度の総回答数にあるように、2020 年度は新型コロナウイルス感染予防のため環境展などが中止となったこともあり、回答数が少なくなっているが、2019 年度～2017 年度の回答数はほぼ同数となった。

表-4 各年度の総回答数

	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
総回答数	932	2358	2475	2294

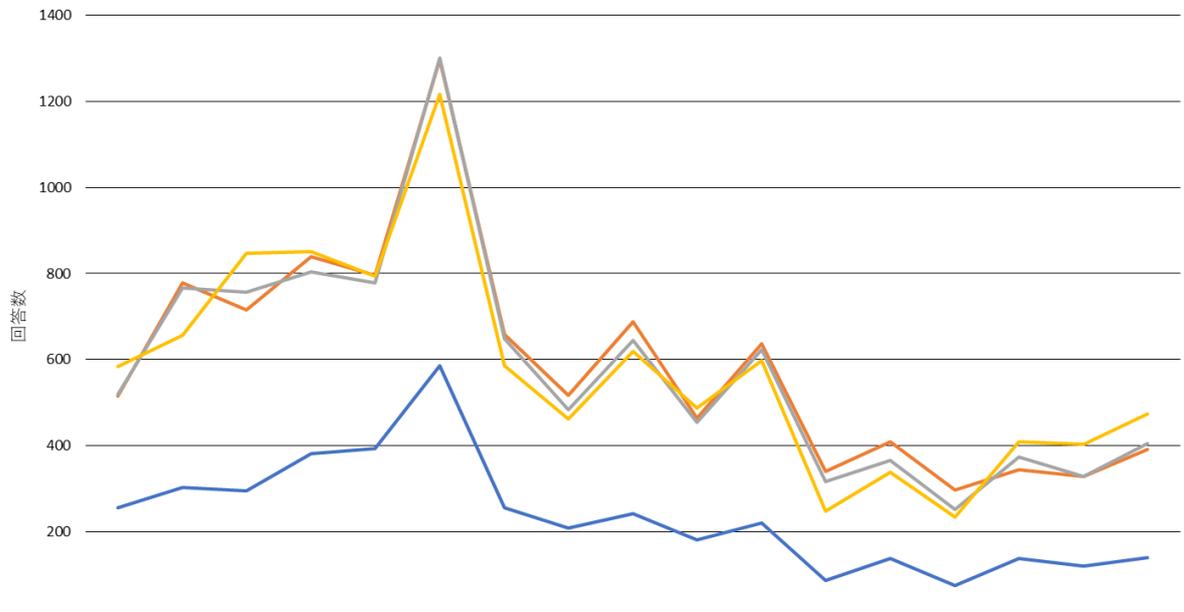
それぞれの選択肢ごとに、年度ごとに大きな差異は見られなかった。図-10 の設問 9 から設問 15 までの 2020 年度と 2019 年度の数値が 2018 年度と 2017 年度に比べ増えているのは、回答空欄時の集計処理を、2019 年度から持っていないの項目に纏めて集計することとしたためである。

図-7 省エネ行動実施状況 既に実施



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
2020既に実施	643	577	593	501	382	241	527	683	541	496	399	572	235	315	767	786	768
2019既に実施	1729	1431	1516	1419	1289	731	1453	1716	1249	1278	982	1381	666	809	1694	1708	1614
2018既に実施	1819	1564	1608	1561	1437	874	1575	1860	1349	1291	993	1419	537	690	1771	1811	1701
2017既に実施	1597	1484	1318	1325	1214	720	1431	1705	1259	1203	936	1405	587	737	1549	1550	1448

図-8 省エネ行動実施状況 実施したい



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
2020実施したい	255	303	295	381	394	585	255	209	243	181	220	88	139	75	139	120	141
2019実施したい	516	778	716	840	797	1297	659	517	689	465	637	340	410	298	344	329	391
2018実施したい	519	767	756	803	778	1300	648	483	645	455	624	317	366	253	374	328	405
2017実施したい	584	656	848	852	794	1216	585	463	620	487	598	248	338	235	410	404	474

図-9 省エネ行動実施状況 難しい

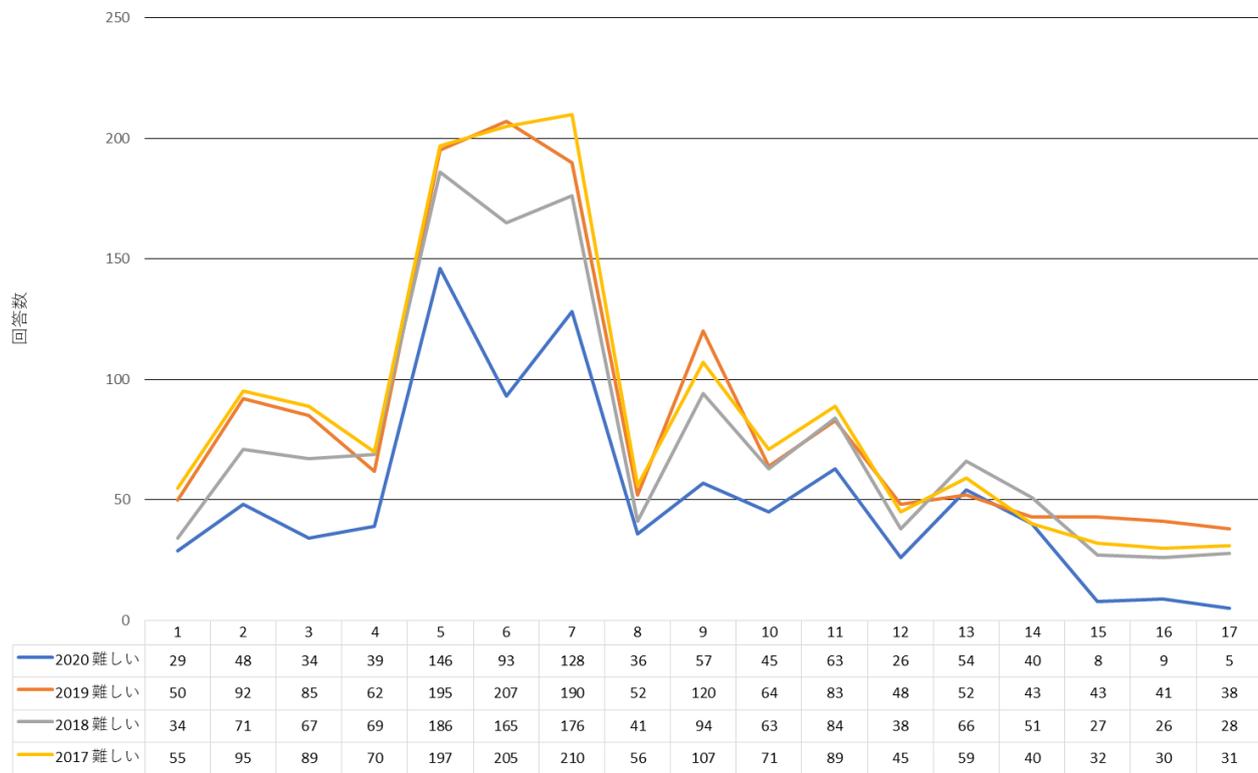


図-10 省エネ行動実施状況 持っていない

